

# バクさんのくつろぎでの活動について

## 【はじめに】

くつろぎでの主な取り組みは、アルミ缶回収、お菓子作り、内職、レクリエーション、調理実習など1年を通しておこなっています。

## 【内職について】

- ・ハンガーのチップ付け
- ・ハンカチやタオルなどの値札シール貼り、たたむ作業
- ・ネジの袋詰め



主にこの3つの作業があります。ハンガーにチップを付ける作業では、付けやすいチップ、固くて付けにくいチップがあり、固いチップの時は手を痛めることがあるため、職員がチップをドライヤーで温めて付けやすくしてから作業をしています。

作業するにあたり、まずはどんな作業にもチャレンジしてもらい、自分に合った作業に取り組んでもらっています。それぞれの障害特性により出来ることは限られますが、どのようにすれば作業がしやすくなるか、工夫をしています。

どうしたらできるかを一緒に考え、一連の作業ではありますが、できる作業などを分担しています。内職は単調で飽きることがあるので、1種類だけではなく違った内職も取り入れるようにしています。また、30分に一度の休憩を取っています。

内職の不良品が少なく出来ることにより業者に信頼され、コンスタントに仕事を貰えるようになってきています。利用者支援について、どんな作業も与えているという認識ではなく、利用者のやりたいことを支援するという心を心がけています。



## 【街ブラについて】



最近車いす利用者が増え、全員でお出かけすることが難しくなりました。そこで『街ブラ』と名付けて月に数回お出かけをおこなっています。利用者が自発的にどこへ行きたいかを伝えられることを目指して取り組んでいます。また、利用者の興味を持てる場所などを引き出せるようにコミュニケーションをとることが求められます。

日にちを設定し、利用者の希望する日を1日選んでもらい、普段のちょっとした買い物や、近場でヘルパーさんとは行きにくいところ、商業施設、外食など行きたい場所を決めてもらい、徒歩や車で出かけています。

車いす利用者や視覚障害者の移動介助の時には、段差や坂道など十分に気を付けて安心安全に楽しくお買い物ができるように心がけています。お店に入るときには、車いすでも入店できるか確認をする、お金の計算が苦手な利用者には会計の際に金額を伝えて、必要な額を出せているか一緒に確認など支援しています。

このような日を設け、少人数だからこそできる充実した外出支援をおこなっています。

## 【菓子作業について】

### ●ケーキ（チーズケーキ・ココアケーキ）

シール貼りやケーキ焼きの器材、材料、レシピを準備しておけば焼くまでの工程は利用者で出来ます。焼き作業は火傷の危険が伴うので職員が行っています。包装作業（ケーキカット、袋詰め、止め金）は、利用者と職員が一緒にしています。



### ●クッキーは5種類（プレーン・チョコチップ・アーモンド・ココア・抹茶）あります。

袋にシールを貼る、クッキーの注文数の袋を2度数えて確認する、賞味期限の捺印、材料計量、生地作り、生地の成型は利用者がしますが、材料計量の再確認と生地成型の計量は力があるので職員がしています。

クッキーを作る工程の中に、材料の計量や、生地を丸い棒状に伸ばす作業があります。計量は職員と確認しますが、クッキーのタネを台紙に格子状に線を引いたことでわかりやすく、並べやすくなりました。包装作業は、計量、袋を開け乾燥剤を入れる、シーラーで袋を密封する、止め金をする、という工程があるので、それぞれできることを役割分担して流れ作業にしています。視覚障害の方が作業をおこないやすいように、ラベルの向きを統一して渡すことで、混乱せずに作業をすることが可能になります。



## 【まとめ】

くつろぎの利用者は、中途障害の方がほとんどです。長年、仕事をされてきた利用者や、働いた経験もない利用者もいるので、時間に追われずのんびりと作業してもらおうようにしています。しかし、開所当時から比べ高齢になられて、みんなで出来ていた作業やレクリエーションも見直す時期になっています。日常的に事業所内での一人一人の見守りが大事になってきています。

